

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集「明日にむかって」編集委員会 発行日 2012年12月15日
住所 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03-3956-1068(陽光保育園)

69号

実りの秋、子どもたちが目を輝かせる活動に、芋掘りと焼き芋大会があります。陽光保育園では、2kmほど離れた城北公園まで4、5歳児が薪拾いに出かけます。その薪だけでは足りないため、いつも近所の材木屋さんへ木の切れ端をいただきにいきます。今年も5歳児が出かけていきました。そのとき「先日も学童の子どもが来てくれて、そんなにはないんだよ」とちょっと困った様子だったとのこと。後日できたの焼き芋を持って、お詫びとお礼に伺ったところ、「今ではここで材木を加工することが少なくなり、木の切れ端が出ない」、「でも毎年秋には子どもたちがもらいにくるので、あちこちからかき集めておく」とのこと。子どもたちへの温かい心づかいに涙が出るほど感動しました。陽光保育園では当たり前のように毎年繰り返してきたことが、周囲にこんなご苦労をお掛けしていたのです。今の保育ができていけるのは、ご近所のたくさんの方のおかげと感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございます。(T・H)

北町保育園 ☆10月6日(土)

0歳児以外は、クラス競技の他、「かけっこ」「リズム」に取り組み、入場は全員で「虎舞」、最後は3〜5歳児の「阿波踊り」で締めくくりました。クラスごとに親子競技も楽しみました。

0歳児 ひよこ組 ひよこのぼうけん

部屋に巧技台で山をつくと、子どもたちはみんな「なんだらう?」と集まってきました。ハイハイやトコトコ歩いて斜面をのぼり、山のてっぺんまでくると、みんな笑顔でのぼってきた喜びを表現します。そんな日常のかわいい姿を見てほしくて、今年から運動会に参加することになりました。



▲段差だって平気!



▲アリスさんが行く!

運動会初参加となる1歳児。日頃から誰かが笑って集まってきて、誰かが走りだすと一緒に走って走ります。みんなと一緒に楽しめて、「楽しそうだな、やってみよう」と互いに刺激しあっている様子です。走って、くっついて、登って……初めの大勢の人たちの前の競争に、ドキドキワクワクしながら一生懸命挑戦しました。

1歳児 リす組 11びきがいく、あひくんたちの旅

3歳児 こあら組 とんぼのうんどうかい

集団の芽生えとしての仲間意識が育っていく3歳児。絵本『とんぼのうんどうかい』をベースに、仲間同士で力を合わせて、こうもりと綱引き、鈴割りをして勝負する競技にしました。オリンピックのサッカーでも、ひとりがシュートを決めるとみんなで喜んでいましたね。その原点が3歳児のここにあるのです。個人競技なのですが、仲間の支えによって成り立つ姿を、運動会当日に見事に見せてくれました。



「わくわく親子遠足」に参加
10月14日(日)、埼玉県子ども動物自然公園で行われた、板橋区学童保育連絡協議会主催の「わくわく親子遠足」に、板橋区あいキッズ学童クラブも参加しました。板橋区内のいくつかの学童クラブの親子が参加し、交流するという企画。現地集合、現地解散の手軽さもあり、多くの親子の参加がありました。午前中、各自、動物を見たりして楽しんだ後、午後は参加者全員で交流ゲームをして楽しみました。他の学童クラブとの交流になり、さらに自分の学童の親同士も仲を深められ、指導員としては、日ごろなかなかゆっくり話せない保護者とも交流できるよい機会となりました。
(板橋区あいキッズ学童クラブ)指導員 宮澤沙保

4歳児 ばんだ組 戸板



走る! ジャンプ! つかむ! 足の指を使ってよじのぼり、腕の力で上半身を板に引き寄せます。練習では、戸板にぶつかったり、こすれて痛かったりしても、何度も走りながら挑戦する姿が見られ、高さの恐怖に打ち勝って、仲間とともに達成できたときは「やればできる」と自分への信頼と自信が大きくなっていました。当日は、自信たっぷり「どんっ!」「ばんっ!」の合言葉で見事全員乗り越えることができました。

竹馬に取り組んだのは、難しいことに直面したとき、あきらめるのではなく、どうしたらいいかを考える力を育てることができると思ったからです。「あきらめないで」「こうやるとできたよ」「おっ! いいね」と15人で声を掛け合い、一緒に頑張ってきました。3分間落ちないで竹馬に乗り続けるのは難しかったけど、当日は最後まであきらめないで乗ろうとする姿を、どの子も見せてくれました。



積み重ねた力を発揮! 運動会

運動会は子どもの成長を父母と共有し、ともに喜び合う場にすることを目標に取り組んでいます。子どもたちは、夏までに培ってきた力を存分に発揮して、大きな誇りと自信を手に入れます。日常の保育の一環として、取り組み過程を大切にします。大きいクラスはそれぞれの目標に向かって粘り強く挑む心と、仲間と支え合い力を合わせる喜びを味わいます。そして、親子はもちろん、父母同士、職員と父母がしっかりと繋がりあう場になります。北町保育園は園庭で、家庭的な雰囲気で行い、陽光保育園はあいにくの雨で板橋第十小の体育館で行いました。

2歳児 うさぎ組 ザリガニの大脱走

5月からクラスで3匹のザリガニを飼いはじめたことで、子どもたちはザリガニが大好きになりました。触ったり水槽の掃除を手伝ってくれたりしています。そんなザリガニとの関わりを元にしたお話で、運動会のクラス競技にしました。子どもたちはザリガニになりきって一本橋を渡り、台を乗り越え、水槽から脱走します。意地悪な子を、みんなでやっつけてしまいます。

4歳児 うさぎ組 パワー全開! 力をこめて

全身の力を使って体当たりで取り組む「ロールマットのぼり」に挑戦しました。自分の背丈ほどのマットによじのぼり、越えていく競技です。思いきり飛びついて腕をひきつけ、足指でふんばります。なかなかのぼれず落ちそうになると、友だちから「あきらめないで!」と大きな声援。仲間の励ましのなかで心が育ち、力を発揮していききました。マットから飛び降りるのも怖さがありました。繰り返し練習するうち自信をつけていきました。

5歳児 きりん組 竹馬

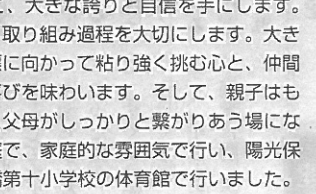
8月下旬、子どもたちは青々とした竹に出会いました。みんな喜びに満ち輝いていました。その竹を磨き、縄を結んで竹馬に仕上げました。自分たちでつくった宝物のような竹馬を持って毎日公園に練習にいきました。乗って歩けるようになるまでには大変な苦労があり、くじけそうになった子もいました。そんなときは、友だちの姿を見て憧れをふくらませ、みんなに励まされてまた向きあっています。できるようになった子は隣でやってみせたり、コツを教えてあげたり、一生懸命です。友だちが乗って歩けたときは、自分のことのように喜び子どもたち。竹馬は、難しいけれどあきらめない強い気持ちと、仲間の励ましがあるからこそできるのです。当日は全員が竹馬に乗った瞬間があり、感動的でした。あっぱれ、かもしが組!

親子でいっしょにあそびましょう! 陽光保育園
今年度はあと3回です。
1月29日(火) 2月19日(火)
3月5日(火)
*動きやすい服装でタオルと着替えをご持参ください。詳しくは陽光保育園までお問合せください。
☎03-3956-1068



0歳児 どんぐり組 みいつけた

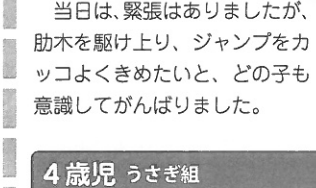
6人中、1歳を過ぎた4人は段差を乗り越えたり、すべり台が好きになり、9カ月の2人もハイハイで行きたいところへ向かっていくようになりました。運動会では、いつも保育士と楽しく遊んでいる姿を見てもらいたくて、アスレチックをつくりました。保育士に向かってハイハイしたり、アスレチックで「いないいないばー」をして楽しく遊びました。



▲「のぼりきったところで名前を呼ばれてはーい!」

3歳児 とんぼ組 めっきらもつきらどおんどん

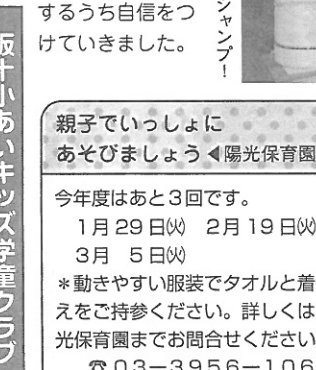
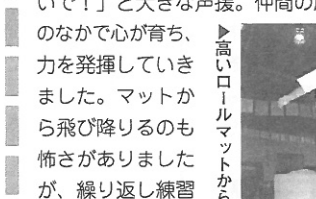
ジャンプや、走ることが大好きになり、ごっこ遊びもおもしろくなってきたとんぼ組。そこで運動会では、絵本の『めっきらもつきらどおんどん』の話をモチーフにして、竹渡りと助木からのジャンプをすることにしました。竹渡りは、床に竹を置いた状態から練習を始めると、子どもたちは「かんたん!」とスイスイでき、高さをつけてからも、ほとんどの子が怖がらずに向かっていました。当日は、緊張はありましたが、助木を駆け上り、ジャンプをカッコよくきめたいと、どの子も意識してがんばりました。



▲慎重に、竹渡り

2歳児 あひる組 あひるマークの清掃車

ゴミ収集車が大好きなあひる組。毎朝ベランダで、ゴミ収集車を首を長くして待っています。いつしかクラスでは「ゴミ屋さんごっこ」が大流行り。清掃員のお兄さんになりきって遊ぶ姿が見られました。そこで運動会の競技は「ゴミ収集車ごっこ」。子どもたちの足が強くなり、斜めの姿勢がとれるようになったことから、競技に車引きも取り入れることにしました。普段から清掃員の方をよく観察していただけあって、



陽光保育園 ☆10月7日(日)

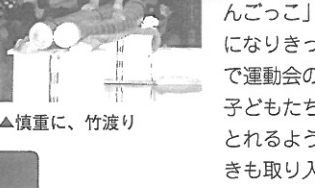
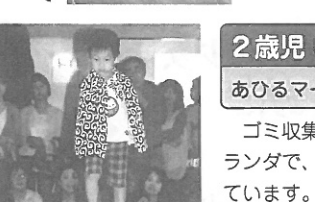
クラス競技の他、それぞれ「かけっこ」「リズム」(0歳児以外)に取り組み、3〜4歳児は日頃のたて割り保育を取り入れて「玉入れ」も、またクラスごとに親子競技も楽しみました。



▲「このくらいはのぼるよ!」

1歳児 めだか組 もういいかい!

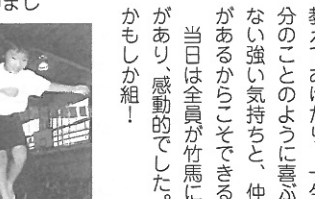
年度当初は歩きはじめたばかりの子もいましたが、散歩やリズムなど、体を動かしていっぱい遊び、夏にはプール遊びが大好きになりました。全員で二泳ぎができるようになり、春よりも一回り大きくなったためか組。運動会は、大好きな斜面を使っての競技で、最後に「もういいかい!」と、かわいいいっかちゃんもいました。いつもと違う場所、大勢の人のなかで緊張している子もいましたが、全員が楽しく競技に参加できました。



▲ゴミを車に投げ入れる姿に一人ひとり工夫をこらしていました。

5歳児 かもしが組 竹馬

8月下旬、子どもたちは青々とした竹に出会いました。みんな喜びに満ち輝いていました。その竹を磨き、縄を結んで竹馬に仕上げました。自分たちでつくった宝物のような竹馬を持って毎日公園に練習にいきました。乗って歩けるようになるまでには大変な苦労があり、くじけそうになった子もいました。そんなときは、友だちの姿を見て憧れをふくらませ、みんなに励まされてまた向きあっています。できるようになった子は隣でやってみせたり、コツを教えてあげたり、一生懸命です。友だちが乗って歩けたときは、自分のことのように喜び子どもたち。竹馬は、難しいけれどあきらめない強い気持ちと、仲間の励ましがあるからこそできるのです。当日は全員が竹馬に乗った瞬間があり、感動的でした。あっぱれ、かもしが組!



思春期を見通した 子育てを

◆今こそ子育て・保育のなかで大切にしたいこと
講師 秋葉英則 先生

今回、秋葉英則先生を講師としてお招きしたのは、早期教育にまつわるさまざまな情報が飛び交うなかで、「早期教育をしないとダメなわけでもないが」「どう育てても育てていけばよいのか」という子育てに不安を持つ保護者が多いことや、便利さが優先される今の世の中で、子どもたちの「生きる力」が奪われているのではないかと、今こそもっと深く「ほんとうの子ども像」や「子どもにとって大切なこと」を保育者自身も考える必要があると思っただけです。「思春期を見通した子育て」というタイトルは、幼児期の育ちが思春期に大きな影響を及ぼすからです。当日は110名の参加があり、先生の温かな人柄に満たされ、充実した時間となりました。



が大切、ということでした。

人は人に惚れて人になる

人類5万年の歴史ということは、子育ても5万年続いているということ。子育てが難しくなったら、とくに人類は途絶えていた。難しくなかつたら続いている。普通のことをやっていたら普通に育つ、というお話から始まった先生の講演。ところが今、これまでになかった出来事が多すぎ。なぜ実の母親が0歳の子どもの命を奪うのか、なぜ陰湿なイジメが起きるのか。そしてその現場では、まったく子どもを信じていないアンケートが配られるのはなぜか。どれも普通じゃない。今こそ「普通」にこだわって、「普通」を発見しましょう、と投げかけられました。

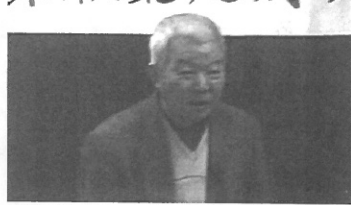
「子ども心」とは、「子どもはじつと生きている」「子どもは自信家」「子どもは寂しがり屋」だから子どもは、誰かに甘えながら賢くなっていく。そして「子どもは比較されることが大嫌い」。この五つをおさえて子どもに関われば子どもは生き生きと生きられる

激動する社会の歴史とともに、ヒトの子育ても5万年続いてきました。現代においても親子、保育者、それぞれに求められるものがあります。今回、その役割について共有できたことが自分にとって最も大きな収穫でした。特に「子ども心」のお話を聞いて、心が軽くなったように感じました。時として大人を悩ませる子どもの姿をよりおらかな気持ちで受け止められるようになった気がします。

すぐには効果が表れない乳幼児への働きかけですが、時間と、目と、気持ちをかけて、子どもたちの将来を楽しみに、日々の保育に励んでいきたいと思えます。

(陽光保育園保育士 神戸圭吾)

「子ども心」を忘れずに



秋葉英則 (あきは ひでのり) 先生
1941年生まれ。大阪教育大学名誉教授、大阪健康福祉短期大学学長、授業研究所所長。著書に「人に惚れて人になる」(フォーラムA)、「人間と文化と子育て」(思春期へのステップ) (以上、清風堂書店) ほかに多数

「人は人に惚れて人になる」とは、秋葉先生が常々言われてきた言葉です。つまり0歳児の担任の保育士は0歳の子どもの心に惚れる人でなくてはならないということです。そのためには「子ども心」がわからないといけない。

「子ども心」とは、「子どもはじつと生きている」「子どもは自信家」「子どもは寂しがり屋」だから子どもは、誰かに甘えながら賢くなっていく。そして「子どもは比較されることが大嫌い」。この五つをおさえて子どもに関われば子どもは生き生きと生きられる



◆こんなときにご利用ください
保護者の就労・求職・通院・職業訓練・通学・看護・介護など。
また保護者の傷病・被災・事故・出産・冠婚葬祭などの緊急時。
保護者の子育て不安・リフレックシユなど。
●育児相談 健康診断等で、お子さんが保育園での保育が必要と認められたとき。

◆利用日・利用時間など
月曜日～金曜日(9時～17時)
(土・日・祝日・年末年始休)
・1歳以上で、離乳の完了しているお子さんから。ただし、板橋区発行「すくすくカード」ご利用の方は生後10か月から。
・一日1時間～8時間。ご希望の時間帯で利用できます。
◆お申し込み・お問合せ
直接、陽光保育園へ。
(03)6366-1068、受付時間(10時～17時)
緊急時以外は、なるべく利用される10日前までに申し込んでください。
・事前に面接をしていただき、利用日・利用時間を予約していただきます。(親子でおいでください)。
・利用料その他、詳しくは陽光保育園までお問い合わせください。

建築資金

◎寄付のご協力ありがとうございます。
(2012年3月6日～2012年11月10日/順不同・敬称略)
秋葉孔、榎本恵美子、石川衣、片山高司、後藤昭雄、吉永和恵、筒井和美、鳴坂みよ子、北澤三千子、渡辺せい、四分一みどり、原好子、浅羽正次、矢野栄治、松沼富佐江、小見山和子、中込由美子、小川正巳、第63回卒園児、陽光会後援会、ひまわり基金、陽光保育園創立60周年記念誌編集委員会
◎財政活動 陽光Tシャツ販売、食品販売、リズム講師
◎寄付のお願い (1口5000円/何口でもけっこうです)
郵便振替口座 00140-0-260468 名義 陽光保育園建設委員会
*上記口座にお振込いただけるとさいわいです。領収書が必要な方はお書き添えください。寄付金控除の対象になります。

再び、軍国少年・少女をつくらないために

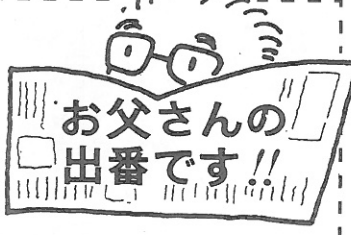


山岡富美

太平洋戦争が始まった1941(昭和16)年12月8日、私は小学4年生でした。寒い朝でしたが、お友だちと遊ぶのを楽しみに学校へ急ぎました。学校に着くと、全校生徒が講堂に集められ、校長先生から「日本は今朝、アメリカ、イギリスを相手に戦争を始めました。でも、これはアジアの人たちを守るためなのです。そして、あなた方は、銃後を守るために、戦地の兵隊さんが負けないように、頑張らなければなりません」と……。担任の先生からは、「あなた方の命は、天皇陛下に捧げたものです。たとえ何処で死んでも、それは天皇陛下のため、日本の国のためなのです。立派な死に方なのです」と毎日のように何度も、何度も聞かれました。音楽の時間には、「海で死んでも、山で死んでも、それは天皇陛下のために死ぬのだから立派な死に方なのです。決して後悔してはならない。本望なのです」という意味の「海ゆかば」という歌を、合格するまで、毎日のように歌わされました。「君が代」の学校内コンクールもありました。
そして、「日本は、この戦争には必ず勝ちます。それは、最後は神風が吹いて、敵を追い払います」と……。先生のおっしゃることは絶対でしたから、私はお国のためならいつ死んでもいいと本気で思うようになっていました。神風が吹いて、日本は必ず勝つ、と心の底から信じていました。
1944(昭和19)年に高等女学校に入学したときは、学校は軍需工場になっていました。上級生は軍服の縫製、1年生はボタン付けや穴かがりでしたが、軍服の生地が厚いので難儀です。ノルマを達成しないと、教官から「それでも日本国民か!」と怒鳴られつづけました。英語の教師は、教科廃止と同時に姿を消してしまいました。退職させられたのだと思います。軍国主義教育の恐ろしさです。
でも、今の日本には、新憲法があります。
憲法前文に、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し……」とあり、あの戦争は国民ではなく、政府の「あやまち」と書かれています。第9条は、戦争と武力による威嚇、または武力の行使は、永遠にこれを放棄するとしています。
再び軍国少年・少女をつくらないために、「宝」の憲法をしっかりと次の世代に引き継いでいきたいと思います。(板橋区在住/元区議会議員)

【お詫び】「シリーズ 戦争と私」は、連載開始(41号、2003年3月発行)以来、10年を迎えようとしています。この間、「番外編」も含め30人の方に執筆していただきました。戦争体験を記録にとどめたいと始めた企画ゆえ、執筆者は高齢の方が中心です。時に聞き書きもありました。事実誤認のないよう注意してきたつもりですが、遠い子ども時代の記憶のため、思い違いもあったようです。読者の方から一部に年代的に食い違いがあるのではとご指摘を受けました。この場をかりてお詫びいたします。今後也十分注意してまいります。どうぞこれからもご指導・ご教示ください。よろしくお願いいたします。(編集部)

- ごあんない(2013年)
● 陽光保育園
● ただじゅんのお正月お祝い公演
日時 1月15日(火) 9時30分～10時
● 荒馬座三二公演
日時 2月22日(金) 10時
● 陽光保育園卒園式
日時 3月23日(木) 9時
※場所は、いずれも陽光保育園ホール
● 北町保育園
● 新年お祝い会
「おはやし劇場だすこんだん」
日時 1月9日(水) 10時
● 北町保育園卒園式
日時 3月14日(木) 9時30分
※場所は、いずれも北町保育園ホール
● 板橋第十小学校あいキッズ
● 獅子舞い公演
日時 1月8日(火) 午後(予定)
● 学童クラブ縁日
日時 2月15日(金) 午後(予定)



これから見守ってごへん
最近、鮮鏢をみてみると、かもしか組(5歳児)らしく成長しているかなと感じます。少し前までは、何をすることも自信がなく、やろうとしなかつたり、できないとすぐ諦めていました。
運動会で竹馬や走り縄跳びをするとき、正直、できるかなと心配しました。でも運動会に向けての鮮鏢の頑張りを見てみると、大丈夫と安心しました。うまくいかななくても投げ出さず、保育園で練習をしたり、家でもオノマ(母)と練習をしていました。ときには失敗し、くやしうて泣くこともありました(男が泣くのはダメですが)。今までだったら何とも思わすすへやめていたのが、そういう気持ちを持つようになったんだなと嬉しく思いました。
夏までに練習して補助なし自転車も乗れるようになり、何事も努力して頑張ればできるという自信をもてるようになりました。かもしかのみんなと目標に向かって一緒に頑張れたおかげだし、サポートしてくれた先生方に心から感謝です。
次は何を頑張るの間か、と「サッカーだー!」雨やひょうが降ってきても練習するんだよ!」と頑張っていました。アッパ(父)は休日に仕事があり、なかなか連れて行ってあげられませんが、近くの町クラブのサッカースクールに参加しています。以前は練習中、コーチの話をしっかり聞けなかつたり、挨拶もちゃんとできませんでしたが、今は挨拶も練習もしっかりできるようになり、楽しんでやっています。アッパは家にいないことが多いので、家では自分ことは自分でやり、オノマのお手伝いをしたり、弟の世鏢(11カ月)の面倒をみてくれます。ほんとに頼もしい存在だし、アッパの分までやってくれるので助かっています。「アッパ、〇〇してはだめだよ」と、たまに怒られたりすることも……。
他のお友達に比べたらスピードは遅いけど、ひとつひとつ鮮鏢のペースで成長しているのも、保育園では先生たち、家ではオノマがしっかりとみてくれているおかげなので、自分も負けないように見守ってほしいと思います。(5歳児クラス・申鮮鏢の父 申(シジマ) 申(シジマ) 申(シジマ))